

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成18年度 内閣総理大臣賞 受賞	受賞者名
	栃木県立宇都宮工業高等学校
	所在地
	栃木県宇都宮市
1. 活動継続 あり	ISO14001 の認証は返上したが、栃木県環境マネジメントシステムの適用を受け、環境問題への取り組みを継続している。
2. 活動の広がり なし	
3. 活動の進化 あり	<ul style="list-style-type: none">・環境マネジメント担当を校務分掌に位置づけ、県との連携をはかるとともに、校内の意識統一に当たっている。・電気使用に関するデマンドに注目し、デマンド教育を開始した。・3S運動を展開し、整理・整頓・清掃の徹底に努めている（右図）。
4. 今後の計画	栃木県環境マネジメントシステムの周知徹底をはかり、栃木県の環境方針に沿った環境教育を進める。また、3S運動から5S運動への転換を図り、身近な環境改善を徹底していく。



（次頁に表彰概要掲載）

【表彰概要】

概 要	
受賞者名	栃木県立宇都宮工業高等学校
所在地	栃木県宇都宮市
活動実績	
<ul style="list-style-type: none">・平成 12 年度より「環境教育の推進」を重点目標の一つに掲げグリーン・エンジニア（人に優しく環境課題に対する識見と行動力を備えた工業技術者）の育成に取り組んでいる。平成 14 年 2 月には、全国の公立高校で初の ISO14001 の認証を取得した。ISO14001 システムを運用する中で、学校全体から排出される可燃ごみ量のリデュース活動および地球環境保全に対する啓発普及活動を 7 年間、継続して実施している。・6 年間で学校全体の可燃ごみ排出量を、約 58%（平成 12 年比）削減した。・生徒会の委員会組織の一つとして「環境委員会」を発足し、放課後に可燃ごみの計測作業をしている。・1 学年の早期より総合的な学習の時間を活用して環境教育を実施し、保護者に対し地球環境保全活動への協力を依頼することにより、手作り弁当を持参したり、ペットボトルをリユースし水筒代わりに使用する生徒が増えた。・校内の樹木の枯れ枝・葉は、土木科の生徒が敷地内に置場を作製して、堆肥化し、草花の肥料として再利用している。・校内で販売している飲料水類は、デポジット制を導入。空き缶の処理については、回収されたアルミ缶を、JRC 部が地道な奉仕活動により洗浄処理し、昭和アルミ(株)他へ送付、車椅子（一台分はプルタブにして 800kg）と交換している。平成 16 年度には 3 台、今年度には 2 台の車椅子と交換することができ、日本赤十字社を通して病院や福祉施設へ寄贈することができた。・生徒会が中心となって定期的に「ISO 通信」という広報を発行。ISO 事務局により月ごとに校内の可燃ごみ等の環境データをグラフ化し、掲示物を作成して取り組み状況を数値化することで環境意識の高揚を図っている。・平成 14 年度に自作の「環境教育テキスト」を発刊した。	